

議題（２）第１回会議を終えての質問と意見について

◎質問

質問 1) 1 案、2 案の場合、将来、不足する教室等は何部屋ですか

回答) 現在の南校舎にある教室分が不足することになります。具体的には普通教室 5 部屋、後期課程の特別支援教室 2 部屋、その他に美術室、技術室等の特別教室と校長室が不足します。ただ、今後の複式学級を想定すると教室数や教室の大きさを調整しなければならない可能性もあります。

質問 2) ハザードマップとの関連や、それぞれの建物の場所の安全性はどうなっていますか。

回答) 村で作成している防災マップにおいて、学校施設への被害が最も大きくなると思われる球磨川 L2（千年に一度の規模の大雨）の想定最大規模によれば、1 案は 10m ほどの浸水、2 案は 5m ほどの浸水、3 案及び 4 案は 5 m ほどの浸水と想定されています。そのため、新たに整備する校舎は 2 階建て以上の建物とし、垂直避難を可能にすることが必要となります。

質問 3) 1～4 案の補助率を教えてください。

回答) 現時点での補助率の算出はできていません。別の自治体における事業で補助率の説明をします。

質問 4) 3 案、4 案の校舎建設後の現校舎の解体工事費は補助の対象になりますか。

回答) 南校舎の建物の状況から今後の利活用は難しいため、解体が必要となる見込みです。南校舎の解体を学校施設の整備事業に含めることができれば、補助の対象となる場合があります。一方で、解体のみ行うのであれば、補助の対象にはならないため、地方交付税措置のある地方債等を活用して村の財政負担が少なくなるように解体事業を進めていきます。

質問 5) 北校舎と北体育館の間に増築することについて検討されなかった理由を教えてください。

回答) この検討委員会で決定する内容は、球磨清流学園の新たな校舎を北校舎側に整備するのか、南校舎側に整備するのかということです。案としてお示しした内容も事業費の概算額を把握する参考としています。質問のとおり、北校舎と北体育館の間での整備を検討する必要があると考えています。

質問 6) 3 案、4 案の床面積は誤りではありませんか。

回答) ご指摘のとおり資料が誤りでした。正しくは約 1,600 坪の想定です。

質問 7) 1 案の既存プール部分に増築する場合、東側は崖（石垣）に面するため杭打ち等の地盤の補強が必要となると思われます。また、西側もグラウンドの擁壁に面するため、その擁壁の安全性が確認されないと擁壁の近くには建物を建設できないおそれがあります。

回答) 杭打ち等の補強に関しては調査を行わなければ不明です。また、擁壁の強度についても調査結果次第となります。

質問 8) 2 案の場合、東側の擁壁の安全性が確認されないと東側に寄せて建物を建設できない恐れがあります。

回答) 先の質問と同様に、調査結果次第となります。

質問 9) 1 案の場合、プールの授業はどうするのか。

回答) 現在は未定ですが、北校舎プールを使用する児童は民間へプールの授業を委託して実施することも考えられます。教育事務所、学校、教育委員会で協議のうえ、北校舎プールを使用する前期課程低学年のプールの授業を実施しないことも選択肢の一つです。

質問 10) 2 案の場合、北グラウンドが狭くなるが、体育の授業等は南グラウンドを利用するのか。

回答) 校舎建設により建設場所だけでなく、資機材置き場も必要となることから、北グラウンドの使用はできなくなる可能性があります。そのため、北校舎の児童も体育の授業等は南グラウンドを使用することになりますが、グラウンドまでが遠くなるため、移動時間が長くなる課題があります。

質問 11) 第 1 回会議の資料で児童生徒数は 6 年後に 40%減となっていた。10 年後、20 年後のシミュレーションはどうなっているか

回答) 国立社会保障・人口問題研究所が令和 5 年 12 月 22 日に公表した内容は、以下のとおりです。

ただし、この推計は令和 2 年国勢調査の人口を基に推計されているため、令和 7 年の 14 歳以下の人数も差が出ています。

	村総人口	0～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳
令和 2 年	2, 433	65	81	99	100
令和 7 年	1, 441	28	45	47	38
令和 12 年	1, 272	23	32	46	33
令和 17 年	1, 101	15	26	32	33
令和 22 年	928	16	16	25	23
令和 27 年	779	15	18	17	18
令和 32 年	650	14	18	19	12

◎意見

- ①北校舎か南校舎かの判断であれば、経年劣化の少ない校舎を選択した方がよい
- ②森林をはじめとした自然に囲まれた球磨村であれば、木材を使用した校舎が良い。地元の木材を活用することで、児童生徒の愛着が生まれ、木育の一環にもなる。
- ③緑の山、川を泳ぐ魚など、児童生徒や教職員が心身ともに健やかに過ごせるよう南校舎周辺での開設を望む。